

科目名 憲法
Title Constitutional Law
科目区分 一般教養(社会)

担当教員
教授 鈴木 陽子(スズキ ヨウコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

憲法に規定されている統治機構や人権が、実際にどのように運用されているのかについて講義する。人権分野については、人権の意義、限界等を説明したのち、より身近に人権をとらえられるよう最高裁判所の判例などをとりあげて具体的に講義していく。また統治機構については、裁判例だけでなく外国の制度などとも比較しながら講義していく。

達成目標

日本国憲法の基本原理、統治機構の仕組み、そして人権の意味内容やその保障の仕組みを理解し、憲法上の問題について判例を上げながら説明することができる。

スケジュール

- 第1回 憲法とは何か・日本国憲法の成立
- 第2回 日本国憲法の基本原理
- 第3回 基本的人権概論・基本的人権の限界
- 第4回 包括的基本権
- 第5回 法の下での平等
- 第6回 精神的自由権(内心の自由)
- 第7回 精神的自由権(表現の自由)
- 第8回 経済的自由権
- 第9回 社会権
- 第10回 人身の自由
- 第11回 参政権
- 第12回 統治機構・国会
- 第13回 統治機構・内閣
- 第14回 統治機構・裁判所
- 第15回 憲法保障と司法審査

教科書・参考文献

教科書 『公法基礎入門(改訂増補第2版)』名雪健二編 八千代出版 ISBN 9784842916583

参考書 六法等を購入する必要はないが、e六法、And六法等のアプリをスマートフォンやタブレットにインストールしておくこと。

授業外での学習

関連するニュースをチェックし、事前に教科書を読んでおくこと。

評価方法

期末試験(100%)

履修上の注意

憲法に関するニュースに注目し、授業内においても積極的に授業に参加してください。

科目名 比較憲法論
Title Comparative Constitution Theory
科目区分 一般教養 (社会)

教授 鈴木 陽子 (スズキ ヨウコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
前期

目的

外国の憲法と日本の憲法の比較を通じて、憲法を理解する。明治憲法はもとより、日本国憲法においても欧米諸外国の憲法の影響を受けており、特に憲法学では比較法というアプローチは必須のものである。本講義では日本の憲法学に強い影響を与えたアメリカ、ドイツ、フランスの憲法と、近隣の国として中華人民共和国憲法を取り上げ、統治機構を中心として講義する。

達成目標

アメリカ・ドイツ・フランス・中国の統治機構について、その特徴を日本との違いを意識して述べるができる。

スケジュール

- 第1回 導入 比較憲法の意義
- 第2回 統治機構、憲法の特徴
- 第3回 アメリカ合衆国憲法 概要
- 第4回 アメリカ合衆国憲法 大統領
- 第5回 アメリカ合衆国憲法 議会
- 第6回 アメリカ合衆国憲法 裁判所
- 第7回 ドイツ連邦共和国基本法 概要
- 第8回 ドイツ連邦共和国基本法 議会
- 第9回 ドイツ連邦共和国基本法 連邦政府・連邦大統領
- 第10回 ドイツ連邦共和国基本法 憲法裁判所
- 第11回 フランス共和国憲法 概要
- 第12回 フランス共和国憲法 共和国大統領・政府
- 第13回 フランス共和国憲法 国会
- 第14回 フランス共和国憲法 裁判制度
- 第15回 中華人民共和国憲法 国家機構

教科書・参考文献

教科書 初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集(第5版)』(三省堂)

参考書 特に指定しない

授業外での学習

関連するニュースをチェックし、事前に教科書を読んでおくこと。

評価方法

期末試験 (80%)、授業内の提出物 (20%)

履修上の注意

予習も含め、授業内においても積極的に授業に参加してください。

科目名 法哲学
Title Legal Philosophy
科目区分 一般教養(社会)

教授 福間 聡 (フクマ サトシ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

本講義ではまず、米国の哲学者であるジョン・ロールズ(1921-2002)の正義論の特徴、およびロールズが自らの正義論を特定する際に用いている諸概念を解説したのち、古代の正義論と現代の正義論が取り組む問題の違いに注目する。次に社会契約説と功利主義について説明し、これらの思想からいかなる影響をロールズは受けているのかについて詳しく考察する。講義の後半部ではロールズの正義論に対する様々な批判を検討した上で、ロールズの正義論の目的とは何であったのかを講義する。

達成目標

ロールズの正義論の特徴を過去から現在の正義論の系譜を踏まえながら学び、現代社会におけるその意義を理解することを通じて、今日の社会的諸問題を哲学的に考察する能力を身につけることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 導入 法と倫理と正義の関係について
- 第2回 ロールズの正義論の特徴
- 第3回 古代の正義論と現代の正義論(プラトン、アリストテレス)・小テスト
- 第4回 社会契約説の系譜・1(ホッブズ、ロック、ルソー)
- 第5回 社会契約説の系譜・2(カント)・小テスト
- 第6回 功利主義・1(ベンサム)
- 第7回 功利主義・2(ミル)
- 第8回 功利主義・3(現代功利主義)・小テスト
- 第9回 リバタリアニズム(ノージック)
- 第10回 コミュニタリアニズム(サンデル)
- 第11回 フェミニズム(オーキン)
- 第12回 ケイパビリティ・アプローチ(セン)・小テスト
- 第13回 運の平等主義
- 第14回 穏当な多元状態と公共的理性(ロールズ)
- 第15回 まとめ・小テスト

教科書・参考文献

教科書 福間聡『「格差の時代」の労働論』(現代書館2014)。適宜プリントを配布する。

参考書 ジョン・ロールズ『正義論 改訂版』(紀伊國屋書店2010)
深田三徳・濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房2007)

授業外での学習

次回の授業範囲に関連する項目について、配布した資料をよく読み、予習しておくこと。また、授業後は必ずノートや配付資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

期末試験の成績で評価する(100%)。

履修上の注意

基本的に、講義形式の授業だが、クラス・ディスカッションなど学生が発言をする機会をできる限り提供していきたい。授業中の私語や携帯電話、スマートフォン等の使用は絶対に禁止。

科目名 ミクロ経済学
Title Microeconomics
科目区分 一般教養(社会)

担当教員
教授 中村 匡克 (ナカムラ タダカツ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

限られた資源(食料や天然資源だけでなく、予算や時間、空間、環境なども)の配分は人びとの幸せと深く関わっているため、その機能を担う市場について理解を深めることは地域政策を考えるうえで非常に大切です。また、地域社会が抱える課題はみな、そこで活動するさまざまな主体(たとえば、個人や企業、政府など)の意思決定やその相互作用の結果として生じていることから、これらの主体の行動様式について理解を深めることも地域政策を考える際に役に立ちます。そこで本講義では、地域政策を学ぶ学生に役立つものとなることに配慮しつつ、市場の機能とその限界ならびに個人や企業などの意思決定とその相互作用について考えていきます。

達成目標

市場の機能とその限界ならびに個人や企業、政府(政治家、官僚、利益集団、有権者も含む)の意思決定とその相互作用について理解し、地域政策研究に役立てられるようになること。

スケジュール

- 第1回 地域政策学部でミクロ経済学を学ぶ意義、講義の概要とスケジュール、評価方法等
- 第2回 市場の機能および個人や企業、その他の主体の目的と意思決定
- 第3回 消費者の意思決定と需要曲線(1)
- 第4回 消費者の意思決定と需要曲線(2)
- 第5回 生産者の意思決定と供給曲線
- 第6回 市場における需要と供給、余剰と市場の効率性
- 第7回 確認テスト(1)
- 第8回 参入規制
- 第9回 市場介入
- 第10回 外部不経済
- 第11回 独占
- 第12回 公共財
- 第13回 確認テスト(2)
- 第14回 ゲーム理論(1)
- 第15回 ゲーム理論(2)

教科書・参考文献

教科書 八田達夫(2013)『ミクロ経済学Expressway』東洋経済新報社

参考書 石川秀樹(2009)『単位が取れるミクロ経済学ノート』講談社
その他、必要に応じて適宜紹介します。

授業外での学習

教科書と配布プリントを使って予習と復習をすること。

評価方法

確認テスト(30%) 定期試験(70%)
※学則で定める一定の出席がなければ評価を受けられませんので、注意してください(出席点はありません)。

履修上の注意

経済学を履修済みあるいは履修中であることが望ましいです。

科目名 マクロ経済学
Title Macroeconomics
科目区分 一般教養(社会)

担当教員
非常勤講師 柿埜 真吾(カキノ シンゴ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

マクロ経済学は一国経済全体を分析する学問です。コロナ禍の下で雇用はどうなるのか。日本経済が長年デフレに苦しんできたのはなぜか。豊かな国と貧しい国があるのはなぜか。こうした疑問に答えるにはマクロ経済学の知識が不可欠です。本講義では、標準的なマクロ経済学の景気変動や経済成長の理論を学び、現代の経済問題を分析するための基礎的なツールを身に付けることを目的とします。講義内では失われた20年の経済政策や技術革新と雇用、不平等をめぐる問題など、最近のトピックについても取り上げます。

達成目標

マクロ経済学の基本的な知識を身に付け、自分自身で現実の経済問題を分析できるようになることを目指す。

スケジュール

- 第1回 講義ガイダンス
- 第2回 イントロダクション
- 第3回 国民所得(1)国民経済計算
- 第4回 国民所得(2)消費と投資の理論
- 第5回 貨幣と物価(1)貨幣とは何か
- 第6回 貨幣と物価(2)インフレーションとデフレーション
- 第7回 労働市場(1)賃金の下方硬直性と景気変動
- 第8回 労働市場(2)技術革新と不平等
- 第9回 IS-LMモデル
- 第10回 AD-ASモデル
- 第11回 開放経済
- 第12回 経済成長理論(1)経済成長の源泉
- 第13回 経済成長理論(2)新古典派成長理論とその限界
- 第14回 現代の諸問題：失われた20年とマクロ経済政策
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 特に指定せず資料を配布。

参考書 マンキュー, N. G. (2017) 『マクロ経済学(第4版)』 I, II巻, 東洋経済新報社。その他の文献は必要に応じて授業内で紹介。

授業外での学習

毎回の予習復習を心がけてください。授業内で指示する参考文献を積極的に読み、日ごろから経済問題に関心を持つようにしてください。

評価方法

学期末試験：60%、課題提出等の平常点：40%

履修上の注意

授業の性質上、ある程度の数学を使います。授業内でもなるべく説明しますが、高校数学程度の知識があれば講義の理解が容易です。また、ミクロ経済学など関連科目の履修もお勧めします。

科目名 日本経済論
Title Japanese Economy
科目区分 一般教養(社会)

担当教員
非常勤講師 中村 宗之(ナカムラ ムネユキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

日本経済の過去と現在を概観し、その将来を展望します。
日本経済の特徴をとらえ、その課題を考えていきます。

達成目標

日本経済の歴史と現状、その抱える課題について理解し、論じることができる。

スケジュール

- 第1回 授業のガイダンス
- 第2回 労働力人口の推移
- 第3回 戦前の日本経済
- 第4回 戦後の日本経済(1)
- 第5回 戦後の日本経済(2)
- 第6回 バブル経済
- 第7回 1990年代の日本経済
- 第8回 2000年代以降の日本経済
- 第9回 リーマンショックとアベノミクス
- 第10回 賃金と労使関係
- 第11回 環境問題
- 第12回 エネルギー政策
- 第13回 日本経済の課題(1)
- 第14回 日本経済の課題(2)
- 第15回 授業のまとめ

教科書・参考文献

教科書 なし

参考書 SGCIME編『第3版 現代経済の解説』, 御茶の水書房, 2017年. 山田博文『99%のための経済学入門(第2版)』, 大月書店, 2016年

授業外での学習

授業の予習や復習をしっかりと行ってください。

評価方法

授業への取り組み姿勢(40%)、期末試験(60%)

履修上の注意

授業で用いる資料は教材システムにアップロードしますので、各自でプリントしてください。

科目名 社会保障論
Title Social Security
科目区分 一般教養(社会)

担当教員
講師 佐藤 和宏(サトウ カズヒロ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

社会保障は、社会保険・社会福祉・公的扶助・公衆衛生の4分野から構成される。本講義では、社会保障の歴史・理論・国際比較・個別政策などの領域について学ぶ。社会保障は、生存権を実現するばかりでなく、社会(国家)における連帯を制度的に表現したものである。どのような歴史あるいは社会構造から社会保障が生まれ、どのような役割を果たし、どのような課題があるのかを理解する。

達成目標

- ・ 社会保障が生まれてきて現に存在するに至る歴史、背景、個別制度の概要、機能や役割などを知る
- ・ 現在の社会問題から社会保障制度の在り方から理解したり、社会保障制度の問題を自分なりに考えたりする
- ・ 以上のようなことについて、論理的・具体的な形で考え、文章にすることができる

スケジュール

- 第1回 インタロダクション / 社会保障制度の概要
- 第2回 社会保障制度の生成と展開
- 第3回 生活保護①生活保護の概要
- 第4回 生活保護②生活保護の論点
- 第5回 医療保険①医療保険の概要
- 第6回 医療保険②医療保険の論点
- 第7回 年金保険①公的年金の概要
- 第8回 年金保険②公的年金の論点
- 第9回 介護保険制度の概要と論点
- 第10回 雇用保険制度の概要と論点
- 第11回 労働者災害補償保険の概要と論点
- 第12回 社会保障財政
- 第13回 貧困の国際比較
- 第14回 社会保障の国際比較
- 第15回 まとめ：レポート振り返りと社会保障体系

教科書・参考文献

教科書 棕野美智子・田中耕太郎, 2020, 『はじめての社会保障—福祉を学ぶ人へ』[第17版]有斐閣.

参考書 社会福祉士養成講座編集委員会編, 2019, 『社会保障 第6版』中央法規出版.

授業外での学習

授業前後には、社会保障や社会問題に関連する項目について、教科書・参考書を中心に勉強をすること。授業後は必ずノートや配付資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。日常的に新聞記事やニュース番組、ドキュメンタリー映像、映画やマンガなどに接する機会があれば、社会保障や社会問題との関わりについて考えること。

評価方法

最終レポート(40%)、受講状況・平常点(60%)

履修上の注意

- ①本授業は特定の資格取得との関わりから設定されているものではないため、基本的に資格取得への対応は行わない。
- ②授業については、基本的にプリント配布とパワーポイントでの講義を中心とする。
- ③平常点は、毎回の出欠確認 / 授業感想用紙(質問やコメントも含む)の提出およびその内容で判断する。

科目名 会計学
Title Accounting
科目区分 一般教養(社会)

担当教員
非常勤講師 寺澤 智広(テラサワ トモヒロ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

「ビジネスの言語」である会計学を学ぶことは、経理実務に役立つだけでなく、数字で会社の経営を見る力を養います。経済ニュースでは日々、多くの会計に関する用語(売上高、営業利益、利益率、債務超過、法人税・・)が取り上げられますが、会計学の知識をきちんと身につけておけばそれらへの理解はより深まります。ビジネスに直接関わらない人にとっても、社会で大きな位置を占めている企業の実態を知ることは有用であり、会計学は現代人の必須知識といえます。会計や簿記は「企業の経済活動を記録・報告するもの」であり、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表(決算書)で経営の状況が報告されます。この授業の目的は、会計や簿記の基礎をきっちり身につけることです。

達成目標

- ①財務諸表(貸借対照表と損益計算書)とは何か、どのような関係にあるのかを理解すること。
- ②日々の取引の仕訳、勘定への転記から財務諸表の作成まで、「簿記一巡」を把握すること。
- ③基本的な取引の仕訳を身につけること。
- ④財務諸表から経営の実態を知るための基本的な経営分析の指標を計算できるようにすること。

スケジュール

- 第1回 簿記・会計とは何か
- 第2回 簿記の基礎と仕組み①～貸借対照表～
- 第3回 簿記の基礎と仕組み②～損益計算書～
- 第4回 簿記上の取引と総勘定元帳の作成
- 第5回 仕訳と総勘定元帳への転記
- 第6回 決算①～試算表の作成～
- 第7回 決算②～財務諸表の作成、帳簿の締切等～
- 第8回 商品売買～分記法と三分法～
- 第9回 現金預金、債権・債務、手形
- 第10回 固定資産の購入と売却
- 第11回 繰越商品と売上原価
- 第12回 貸倒引当金の設定
- 第13回 固定資産の減価償却
- 第14回 経営分析の基礎①～損益計算書の分析～
- 第15回 経営分析の基礎②～貸借対照表の分析～

教科書・参考文献

教科書 毎回プリントを配布します。

参考書 小栗崇資『コンパクト財務会計 クイズでつける読む力』、中央経済社、2018年
TAC簿記検定講座『合格トレーニング日商簿記3級』、TAC出版(最新版)

授業外での学習

プリントの見直しを行った上で、問題演習の宿題に取り組んでください(参考書の該当ページを授業ごと指定します)。

評価方法

期末試験(50%)、小テスト(3回×10%)、受講状況(20%)

履修上の注意

電卓を持参してください。会計・簿記は「手で覚える」ことが肝心です。授業で解いた問題の解き直しや、宿題をきちんと行いましょう。理解が深まれば問題がきちんと解けるようになりますので、不明点・疑問点は授業中・後を問わず遠慮なく質問してください。

科目名 教育学
Title Education
科目区分 一般教養(社会)

担当教員
准教授 吉原 美那子(ヨシハラ ミナコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

本講義は「教育学」の入門編である。教育の基礎的概念、そして理論・歴史・思想の基本的な知識を学び、「教育とは何か」という問いを多角的かつ客観的に理解することを目的とする。全体は、(1)教育の本質と教育思想、(2)公教育の概念と教育制度、展開、(3)学校教育のあり方と今日的課題、(4)現代社会における教育問題と子ども、の4構成から成り立っている。これらにより、教育という営みについて理解を深め、教育の様々な事象に対し自らの考えをもつ力を培うことを目指す。

達成目標

本授業のテーマは教育の本質を学ぶことである。本授業の達成目標は次の通りである。

1. 教育の思想、歴史的事項、制度を体系的に理解する。
2. 学校の意義について多角的に議論することができる。
3. 社会の変容と子ども・若者との関係を説明することができる。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション:講義の概要と進め方、評価方法の説明、導入講義
- 第2回 教育の本質① 「教育」の語源、「教育」とは何かを考える
- 第3回 教育の本質② 人間の発達段階と教育、歴史からみる“子ども”、みんなの子ども時代
- 第4回 教育の本質③ 教育の思想家から学ぶ教育理論と実践(古代から近代)
- 第5回 教育の本質④ 教育の思想家から学ぶ教育理論と実践(近代から現代)
- 第6回 公教育の概念と制度① 近代教育制度の成立、教育の義務化と教育を受ける権利の確立
- 第7回 公教育の概念と制度② 教育の歴史、そもそも「学校」とは?
- 第8回 公教育の概念と制度③ 学校の謎を解き明かす
- 第9回 現代の学校教育① 学校の知と学校文化
- 第10回 現代の学校教育② 学校の意義(デイバート)と脱学校論
- 第11回 現代の学校教育③ 諸外国の教育制度
- 第12回 現代の学校教育④ 日本と諸外国の学校文化を比較する
- 第13回 現代の子どもと若者① 社会階層と若者
- 第14回 現代の子どもと若者② 現代社会の子ども・家庭の変容
- 第15回 総括、現代における教育の諸問題について議論する

教科書・参考文献

教科書 特に定めない。毎回プリント(ノート用及び資料)を配布する。

参考書 勝野正章他(2015)『問いからはじめる教育学』有斐閣ストウディア 他

授業外での学習

復習として配布するノート用プリントを完成させること。授業中に様々な課題を提示するので、必ずやってくる。授業で設定するワークショップやグループ・ディスカッション等はこれらの課題をやってくるのが前提となる。

評価方法

課題やグループ・ディスカッション等(40%)、期末試験(60%)を基本に、総合的に判断して評価する。

履修上の注意

日頃から教育に関わるマスメディアの情報や書籍、専門誌に目を通すことを期待する。また、履修者同士の議論の場を設けるので、その点を考慮した上で履修してほしい。議論が苦手な場合であってもは教員が支援する。また、履修者の興味関心や提示した課題の進行具合によって、講義のテーマもしくは内容が前後することがあることに留意されたい。

科目名 ジェンダー論
Title Gender
科目区分 一般教養(社会)

担当教員
非常勤講師 橋本 美由紀(ハシモト ミユキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

普段、何げなく生活している私たちの社会にはたくさんのジェンダーバイアス(ジェンダーによる偏り)が潜んでいる。それに気づける視点を養い、その視点から現代社会で起こっている諸問題を検討し、実際の生活に役立つようにする。

達成目標

ジェンダー、セクシュアリティ概念を説明できる。その視点から現代社会の諸問題を討論することができる。

スケジュール

- 第1回 ジェンダーとは何か-作られる男らしさ、女らしさ
- 第2回 ジェンダーについて考える-DVDより
- 第3回 ジェンダーと労働(1)-近代産業社会の産物としての性別役割分業、無償労働という課題
- 第4回 ジェンダーと労働(2)-ワークライフバランス社会に向けて
- 第5回 社会制度とジェンダー平等I-戦後改革と社会制度
- 第6回 社会制度とジェンダー平等II-男女共学制度が人々に与えた影響について学ぶ
- 第7回 社会制度とジェンダー平等III-社会生活に潜むジェンダー問題に気づく
- 第8回 社会制度とジェンダー平等IV-日本の男女共同参画の現状を知る
- 第9回 社会制度とジェンダー平等V-ジェンダー不平等の現実を知る
- 第10回 こんなに違う! 世界の性教育
- 第11回 社会におけるセクシュアリティ-セクシュアルハラスメントの事例に学ぶ
- 第12回 社会におけるセクシュアリティII-LGBTの人々への学校教育と判決事例
- 第13回 社会におけるセクシュアリティIII セクシュアル・マイノリティへの文科省の対応とその問題点・課題
- 第14回 LGBTの活動-性的マイノリティとトイレフォーラム
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 配布資料

参考書 伊藤公雄ほか著(2011)『改訂版 女性学・男性学-ジェンダー論入門』有斐閣アルマ

授業外での学習

初回配布の講義に関する文献リストに従って、事前に学習する。

評価方法

定期試験(80%), レポート(20%)

履修上の注意

受講生の理解度や関心によって講義スケジュールを変更する場合がある。

科目名 犯罪と法
Title Criminal Law
科目区分 一般教養(社会)

担当教員
非常勤講師 加藤 昌之(カトウ マサユキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

(1)講義内容の概要

①刑法38条1項：罪を犯す意思のない行為は罰しない。ただし、法律に特別の規定がある場合は、この限りではない。

講義を通じて「罪を犯す意思」とは何か、「法律に特別の規定がある場合」とは何かについて考える。

②犯罪とは何か、法とは何か、規範とは何かについて概観する。
さらに意思とは何か、認識とは何か、行為とは何か、認識した事実と発生した結果の食い違い(齟齬)は、刑法における「錯誤」と同じ意味が、さらに故意犯と過失犯の違法性の違いについて説明する。

(2)講義の目的：政策立案や公益事業を推進する者に求められる判断力と論理構成力の醸成を目的とする。

達成目標

目標1：犯罪の三要素(構成要件該当性・違法性・有責性)の概要とそれらの関係性を理解する。
目標2：裁判事例を題材として人間の行為、故意、過失、犯意、違法性の本質、未遂の本質から刑事責任について考える。そして政策立案、展開、評価、変更等で発生する諸課題を自らの意思と判断で解決する思考習慣を身につける。

スケジュール

- 第1回 「犯罪と法」の講義目的
(昨年の試験問題は？ 法って何？：自然の因果性と自由による因果性との関係、事実と当為との関係)
- 第2回 犯罪って何？ 刑法って何？
(刑法の目的と機能、刑法の基本原則：罪刑法定主義およびその派生原則など)
- 第3回 行為とは何か？
(行為論：因果的行為論、社会的行為論、人格的行為論、目的的行為論それぞれの特色と違いは何か？)
- 第4回 「わざと」って何？(その1)
(故意と犯意は違う！ 故意は主観的構成要件要素であり、犯意は主観的違法要素である)
- 第5回 「わざと」って何？(その2)
(犯意と故意の違いを判例と学説が読み解くと真実が見えてくる)
- 第6回 「うっかり」って何？(その1)
(認識ある過失と未必の故意は、どちらも「事実の認識」があるが、この2つを区別する基準は何か？)
- 第7回 「うっかり」って何？(その2)
(判例から見えてくる過失犯の構造と不注意の意味、そして不注意と注意義務との関係)
- 第8回 あんたがやったの？
(因果関係論：学説と判例の着眼点の違いは何か？)
- 第9回 それって悪いこと？
(違法論：形式的違法性と実質的違法性、違法か否か判断基準は何か？)
- 第10回 殺される前に殺すことは違法？
(違法阻却事由1：正当防衛行為の本質は何か？)
- 第11回 あなたは他人の命を守れますか？
(違法阻却事由2：緊急避難行為と正当行為の違いは何か？)
- 第12回 「やりそこねた」は犯罪？
(人を刺したが「殺さないで」の一言で殺害行為をやめて病院へ連れて行った。 罪は軽くなるの？)
- 第13回 酔っぱらって人を殺したが、「そんなこと覚えていない」という言い訳は通用するの？
(責任論：「原因において自由な行為」の理論は、そもそも何のための理論か？)
- 第14回 「お前がやれ」も犯罪？
(共同正犯、共謀共同正犯、教唆犯、ほう助犯の違いは何か？)
- 第15回 今年度、世間の注目を集めた犯罪事例と判例動向。そして定期試験で問われることは何？

教科書・参考文献

教科書 井田 良 著 入門刑法学 総論 第2版(有斐閣・2019年12月25日第2版第2刷) 2,100円

参考書 齋藤信宰 著 新版 刑法講義【総論】(成文堂・2007年4月10日) 4,200円
石川文康 著 カント入門(筑摩書房・ちくま新書029 1995年5月20日) 680円

授業外での学習

ポータルサイトのレポート欄に必要な応じて課題をアップします。
課題への回答を講義終了時間から3日後(土曜日)13時まで同ポータルサイトにアップしてください。

評価方法

期末試験の結果によって評価する(100%)。

履修上の注意

受講時には、教科書と六法(有斐閣ポケット六法、三省堂デイリー六法、岩波コンパクト六法など)を必ず持参すること。尚、出席は毎回取る。

科目名 労働と法
Title Labor Law
科目区分 一般教養(社会)

担当教員
非常勤講師 鎌田 耕一(カマタ コウイチ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

I T、A Iなどの技術革新、アウトソーシングなどの事業組織の変化により、働き方が大きく変化している。新卒一括採用、年功賃金、定年までの雇用保障といったこれまでの雇用の見直しが行われている。他方で、劣悪な労働条件を隠した不当な求人情報など就職に係わる問題が注目を集めている。労働法はこれまで、企業内の雇用問題を主な対象としてきたが、今後は、求人企業からの適切な求職情報の提供、求人・求職の円滑なマッチング、将来のキャリアを意識した教育訓練などがますます重要となっている。そこで、この科目は、八口一ワーク、求人メディアなどの人材ビジネス、失業時に失業手当を支給する雇用保険制度、地域における雇用創出、高齢者・若者・障害者の雇用促進に関する政策など、人と仕事をむすびつける法政策(これを労働市場法という)について分かりやすく体系的に説明する。なお、法律学初心者向けに法律学の基礎的な知識を解説する。

達成目標

①求人情報の提供、雇用保険制度などの学習により、学生が安定した職業生活を送るための基礎知識を得ることができるようになる。②地方自治体、NPOなどの非営利団体の活動に関心がある学生には、地域雇用開発、高齢者・若者・障害者の雇用促進の仕組みを学習することができる。③人材ビジネスに関心をもっている学生には、人材サービス事業の許可、活動ルールを学習することにより、こうした事業への適性を高めることができる。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション この講義の目的と授業計画
- 第2回 労働市場の意味とプレイヤー(国・求人企業・求職者・雇用サービス事業)
- 第3回 労働市場法の目的と体系(労働権、職業選択時の自由)
- 第4回 労働市場の機構(公共職業安定所と労働保険特別会計)
- 第5回 労働市場法の実効性確保
- 第6回 職業仲介法1(職業仲介事業と共有ルール)
- 第7回 職業仲介法2(職業紹介事業、募集情報等提供事業(求人広告業))
- 第8回 職業仲介法3(労働者派遣事業)
- 第9回 雇用保険法1(雇用保険の目的と特徴)
- 第10回 雇用保険法2(保険関係)
- 第11回 雇用保険法3(基本手当の受給要件と給付制限)
- 第12回 雇用政策法1(目的と募集・採用における差別禁止のルール)
- 第13回 雇用政策法2(失業防止と地域の雇用促進)
- 第14回 雇用政策法3(高齢者・若者・障害者の雇用促進)
- 第15回 職業能力開発法(将来を見越したキャリアの形成)

教科書・参考文献

教科書 鎌田耕一『概説 労働市場法』(三省堂)

参考書 授業中に適宜指示する。

授業外での学習

各週ごとに次回講義のテーマを予告し、教科書などを用いて予習するよう指示する。また、毎回講義の終了後に学習確認問題を提示し、これを用いて講義内容を復習する。

評価方法

レポート(30%)、期末試験(60%)と受講状況(10%)で判定する。

履修上の注意

労働問題に関心のある学生の聴講を期待する。履修上の注意事項については、最初の講義のときに指示する。